

# 『それはかつてあったから』 上映会 ～デジタル社会における新しい弔いのかたち～



2025年10月25日 (土)

15:00～17:20

開催場所 千葉商科大学

近未来の葬儀のあり方を一緒に考えてみませんか

人生100年時代と言われる中、「終活」を通じて死を前向きに捉えようという人が増えているように思います。人は、死を意識するから生の充実を意識できるのではないのでしょうか。この映画では、近未来における弔いの一形態としてバーチャル葬儀の状況を描いています。弔いとテクノロジーが融合したとき、私たちは何を思い、何を考えるのか。上映後は、映画監督や関係者によるトークセッションがありますので、是非、トークを通じて映画の深掘りをしていただき、自分にとって葬儀とはどのようなものなのかを考えるきっかけにいただけたらと思います。

## Story

ブライダルフォトグラファーの相良真は、病で父を亡くした。しかし、葬儀を経ても父への感情をうまく整理できない。父の葬儀から2年後、友人から「友人の父の葬儀の写真撮影」を頼まれる。「新たな葬儀」に向き合おうとする中、相良は父のオンライン葬儀会場を再訪する。そこで、過去の父を知る人からのメッセージを目にし、父の過去の一面を知る。

再び父を悼むために、彼はバーチャル会場にある父の遺影を見つめ、その人生と遺したものに思いを馳せる。

## Program

- 15:00～ 開催挨拶、趣旨説明  
15:05～ 作品上映  
15:45～ 休憩  
15:55～ 作品解説  
瓜生大輔氏／本作プロデューサー  
有馬俊氏／本作脚本・監督  
16:20～ トークセッション  
瓜生氏、有馬氏、  
奈雲祐稀氏／千葉商科大学卒業生  
・霊園販売業経営者  
＜ファシリテーター：朽木量教授/千葉商科大学＞  
17:00～ 質疑応答  
17:20 終了予定



## Speaker Profiles



瓜生大輔氏／本作プロデューサー

研究者、デザイナー。専門はHCI（ヒューマン・コンピューター・インタラクション）デザイン、弔い、死者祭祀・供養、故人を偲ぶためのデザイン。デジタル時代における葬送・供養のデザイン研究の世界的第一人者。



有馬俊氏／本作脚本・監督

研究者、映像作家。専門は映像制作、デザインフィクション、学習デザイン、リフレクションデザイン。大学在学中から映像制作活動を開始し、企業や大学の研究コンセプトビデオなどの監督を多数務める。



奈雲祐稀氏／千葉商科大学卒業生  
・霊園販売業経営者

流山市のお寺で育ち、大学時代には石材店でのインターンを通じてお墓販売に携わる。卒業後は霊園開発のベンチャー企業で、霊園の立ち上げや販売・マーケティングに従事。現在は独立し、樹木葬霊園の開発に取り組んでいる。



朽木量 総合政策学部教授／千葉商科大学

日本の近世～近現代の墓標研究を基軸に、歴史考古学・民俗学等を研究。近年ではテレビ大阪『お墓から見たニッポン』にレギュラー出演中。

### 詳細・お申込み

千葉商科大学の「CUC教室映画講座 第1回」ウェブページからお申込みください。

[https://www.cuc.ac.jp/event/2025/movie\\_koza1025.html](https://www.cuc.ac.jp/event/2025/movie_koza1025.html)

千葉商科大学 CUC教室映画講座 第1回



申込締切：10/24(金)

### お問合せ

千葉商科大学 社会連携推進課

〒272-8512 千葉県市川市国府台1-3-1

E-mail : [cucr@cuc.ac.jp](mailto:cucr@cuc.ac.jp)

TEL : 047-320-8667

(平日9:00～17:00)